



教育目標

心豊かでたくましく

自ら学ぶ生徒の育成

校訓：ゆとり うるおい かがやき
倉敷市立東陽中学校 ～校長室より～

TOYO PRIDE

2021.1.12 No.14



美術部作品

※東陽中学校のホームページで「TOYO PRIDE」カラー版をご覧になれます。

～3学期始業式（令和3年1月7日）の校長の話（放送）より～

東陽中学校の皆さん、新年あけましておめでとうございます。身近な人にも笑顔で挨拶をして、有意義な冬休みを過ごしましたか。

さて、今年は丑年ですね。丑年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切とされているそうです。「一年の計は元旦にあり」という言葉がありますが、皆さんも元旦に新年の抱負を考えたいと思います。それを言葉にしたり、文字で表したりする機会がクラスでもあるかもしれませんね。「抱負」とは、心の中で抱えている計画や決意のことです。似たような言葉で「目標」がありますが、具体例を挙げると目標は「マラソンを完走したい」というように達成したいことを表します。一方「抱負」は「マラソンを完走するために、毎日練習する」というように、目標を達成するための行動計画の部分を表すものだそうです。

丑年の一年間を通して、なりたい自分をしっかりとイメージしてみてください。そのイメージの中には、4月からの新しいステージでの自分の姿も含まれているはずです。一年後のなりたい自分のイメージに近づくためには、具体的に何をすればよいのでしょうか。自分の掲げている「目標」と胸に抱えている「抱負」について、もう一度自分に問うてみてほしいと思います。そして、着実に物事を進めていく丑年の好スタートの第一歩を踏み出してほしいと切に願います。

次に、冬休み中に嬉しい新聞記事を発見しましたので紹介します。山陽新聞の12月27日の「ちまた」という読者のページへの投稿記事です。「中学生が古切手集め協力」という記事の一部を読みませう。

※実際の新聞記事や生徒会の「東陽中学校から世界へ～古切手で難民を救おう～」の活動について、裏面で詳しく説明していますのでぜひご覧ください！

地域の方と東陽中学校が連携して、世界に目を向けた活動ができ、それを新聞というメディアを通して多くの読者の方に紹介していただきました。この記事は、私たちの心の中にTOYO PRIDOの種をまいてくださったと思います。3学期も、引き続き古切手を皆で集め、TOYO PRIDOの花を育てていきましょう！

最後になりましたが、私は、冬休み中に転倒して、左肩を骨折してしまいました。痛みの辛さを思い知りました。体の痛みでも心の痛みでも、それを抱えている人に寄り添ってくれる人の気持ちや手助けのありがたさが身にも心にも沁みた冬休みでした。

これからが一番寒い時期になります。三密は避けるけれど、思いやりの心は密に寄せ合いながら、事故や怪我などにも気を付けて、3学期も笑顔で安全に学校生活を送ってほしいと思います。TOYO PRIDOを胸に、共に頑張りましょう。 山本 琴美

3学期も、地域・保護者の皆様のご支援ご協力をよろしく願います。

裏面もご覧ください➡

生徒会古切手回収の活動

と山陽新聞「ちまた」欄(12月27日付)の記事を紹介します!

古切手で難民を救おう! 令和2年度 倉敷市立東陽中学校生徒会

○ 収集対象となるもの

■ 記念切手

キャラクターやシリーズもの、
○記号と表記のある期間
限定もの、変形の切手など。

記念切手は、消印の有無は
問いません。



■ 普通切手

広く一般に流通し、よく見かけるもの。

消印の日付と地名が
残るよう、切手周辺を
1cm程度残して
お切りください。



長い消印の場合は、
日付と地名が
1つずつ残るように
お切りください。

✕ 収集対象外のもの



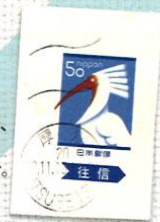
消印が切り取られているもの。
消印部分も収集対象ですので、今後お送りいただく際は、
必ず消印の部分を含めて切り取ってください。

封筒の裏側も合わせて
切り取られているもの。

切手は重量で
取引されるため、
裏面は切り取ってください。



官製はがきや
航空書簡などの、
あらかじめ印刷
された切手部分。



メータースタンプや
メール便のシールなど。

東陽中学校から世界へ

古切手で難民を救おう



2学期に 2,940枚 (約 445g) の切手が集まりました。よろしく申し上げます。

倉敷市立東陽中学校生徒会



令和2年12月22日、校長室にて、東陽中学校で協力して集めた切手を佐藤さんにお渡ししました。ご協力いただいた生徒・保護者の皆様ありがとうございました。3学期も引き続きご協力よろしくお願いします!

山陽新聞 月刊
ちまた 2020年(令和2年)12月27日 日曜日

読者のページ

中学生が古切手集め協力

佐藤圭一 92
(倉敷市)

使用済み古切手が難民の子どもを救おうということを知って、周囲の人に呼び掛け古切手集めの窓口を思い立った。小さな親切運動の一環だ。それから1年たった9月、東陽中学校の校長と会う機会があった。私の切手集めしぼらとして校長から2940枚の古切手

12月22日、学校から連絡があって出掛けに、子どもたちの顔が輝いて見えた。爽やかな中学生の姿が印象に残った。

「3学期も続けます」との生徒会長の声が、子どもたちの顔が輝いて見えた。

袋の表には「東陽中学校から世界へ」と大きく書かれ、「古切手で難民を救おう」という言葉が続いていた。世界の国々の子どもが描かれたイラストもある。

が集まりました」と。